

2022(令和4)年度 部局マニフェスト ～私たちの組織使命と目標～

部局名	消防本部
役 職	消防長
氏 名	林 浩己
連絡先	0595-24-9100



業績目標の達成状況
5. 先進的な取り組みを行い、成果があった
4. 達成水準を上回る成果があった
3. 業績目標を達成した
2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった
1. 業績目標に取り組まなかった

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段
◎部局目標1	関連の施策・基本事業No. 2-2.①	〈現在の状態〉 人口減少・少子高齢化する中でも、複雑多様化・大規模化する災害への対応が必要である。 ↓ 〈達成目標〉 ・名張市消防本部との共同消防指令センターの整備を図る(R4設計、R5構築) ・連携協力の役割分担の中で、はしご車を更新整備し消防力を充実強化する。(R4) ・持続可能な消防行政サービス提供のため策定する、第2期(R7～11年度)消防本部組織再編計画について、市民等の意見を踏まえた方向性を決定する。 ※目標が達成した状態 効率化を図り、持続可能な常備消防体制を構築し、消防力を充実・強化する。	・名張市消防本部と消防の連携・協力を行う。 ・連携協力に基づく活動を行った場合、両市で検証を行う。 ・伊賀市消防本部組織検討委員会及び伊賀市・名張市消防連携・協力委員会で検討する。 ・市民へのアンケートを実施する。
常備消防体制の充実強化を図り、安心安全なまちづくりを進めます。	・複雑、多様化、大規模化する災害に対応する持続可能な消防行政サービスの提供		

達成状況 (自己評価)	理由
3	4月より名張消防との連携協力を開始し、予防・警防業務について、合同の訓練や検査を実施している。また、通信指令業務は、令和6年度の共同運用に向けて予定どおり進めている。そして、機能分担した梯子車の導入も予定どおり進めている。 消防組織再編については、eモニター及び、はがきによる市民アンケートを実施した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段
◎部局目標2	関連の施策・基本事業No. 2-2.②	〈現在の状態〉 高齢化等による救急需要の増加や、高度化する救命処置に対応する必要がある。 ↓ 〈達成目標〉 救急隊員の技術を、さらに向上させ、適切な手当を実施し、医師へ引き継ぐまでの時間を短縮する。 ※目標が達成した状態 一人でも多くの傷病者の命を救うことができる。 また、その予後を良くすることができる。	名張消防と連携協力による ・傷病者が多数いる場合の応援出動 ・救急車がすべて出動しているときの応援出動 ・医師による事後検証 ・連携協力した活動事案の検証 ・合同救急症例検討会 ・合同救急技術向上訓練 救急輪番病院における病院実習

達成状況 (自己評価)	理由
3	・5月通信指令員教育を2回実施。 ・名張市との合同訓練を今年度は2回実施 内容は、特殊災害で傷病者が多数いる場合の応援出動訓練と合同救急技術向上訓練。 ・6月に岡波病院で症例検討会を実施。 ・R5. 1月に上野総合市民病院で症例検討会を実施。3月に名張市立病院で症例検討会を実施。 ・3月に救急練成会を実施。 ※これらの訓練、研修を実施したことで救急技術の向上が図れた。



組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標3	関連の施策・基本事業No 2-2.②	〈現在の状態〉 市民にAED設置場所が認知されていない。 ↓ 〈達成目標〉 AED設置施設を確認してAEDマップを更新し、市民にわかりやすく周知する。 ※目標が達成した状態 近くにあるAEDが使用される機会が増え救命率の向上につながる (令和3年中 AED使用 10件)	・AED設置施設を確認し、ホームページを更新する。 ・AEDマップを市民センターに配布する。 ・広報いがに掲載する。 ・救命講習やその他の講習時に受講者に周知する。 ・AED使用件数を検証する。	2	・ホームページのAEDマップを修正し、救命講習やその他の講習時受講者に周知することはできたが、AEDマップを各市民センターに配布することと、広報いがに掲載することはできなかった。 ・AEDの使用件数はR4年は18件でR3年より8件増えた。 ・今後はホームページでのAEDマップをAEDナビに変更する予定。
◎部局目標4	関連の施策・基本事業No 2-2.②	〈現在の状態〉 現場対応人員と保有資器材が限られていることから、小規模な訓練しか実施できない状況にあり、特殊な災害に対応することが困難である。 ↓ 〈達成目標〉 伊賀市・名張市相互応援協定及び伊賀市・名張市消防連携・協力に関する協定に基づき、両市の人員資器材を活用した特殊災害対応計画を作成し、年1回以上合同訓練を実施する。 ※目標が達成した状態 単独では対応困難な災害に対応できる。	・他の消防本部に職員を派遣し、より高度な環境で業務を実施する。 ・基本訓練にVR(バーチャルリアリティ)を用いることで訓練時間の短縮を図り、実践的な訓練時間を確保することで、技術の高度化を図る。 ・消防団の貸与資器材を有効活用した救助訓練や名張市消防本部と連携した訓練の実施。	3	・奈良県広域消防の救助隊実務研修修了者で救助隊長研修カリキュラムを作成した。 ・VR現在作成進行中 ・名張消防との連携訓練は4回実施。内容は水難救助訓練2回、はしご車の合同架梯訓練、特殊災害連携訓練。 ・消防団と消防署で合同消防訓練を文化財防火デーに合わせて実施。また、消防団訓練指導部と消防署員との特殊災害合同訓練が実施できるよう構想を企画。 ※各関係機関と連携訓練を実施したことで、単独では対応困難な災害に対応できる救助技術の向上が図れた。
◎部局目標5	関連の施策・基本事業No 2-2.③	〈現在の状態〉 住宅火災では高齢者の死傷者が多い。 ↓ 〈達成目標〉 住宅火災件数10件以下を目標とし、住宅火災による死者0を目指す。 ※目標が達成した状態 ・死者数の抑制、被害が軽減される。 ・市民が安心して暮らせる。	・関係機関と連携して高齢者宅防火訪問を実施する。 ・介護事業関係者等に対し火災予防啓発を行う。 ・住宅用火災警報器の設置を市広報等で周知及び普及啓発を図る。	3	コロナ禍の中、出来る範囲で広報や防火訪問を実施しており、今年度は住宅火災がR3年(4月～2月)と比較して4件増えているが、火災による逃げ遅れの死者は発生していないので、現在のところ、一定の成果が出ていると判断している。 住宅火災での死者の多くは高齢者であることから特に高齢者に向けての設置率向上の広報を強化した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標6	関連の施策・基本事業No. 2-2.③				
予防体制の充実強化を図り、安心安全なまちづくりを進めます。	・野焼きが原因の火災の減少を目指す。	〈現在の状態〉 野焼きが原因の火災が多い。(75件中39件)52% ↓ 〈達成目標〉 野焼きが原因の火災件数を昨年の39件より減少させる。 ※目標が達成した状態 火災による損害が少なくなる。	・火災の発生をわかりやすく広報することで、防火啓発を行う。 ・火災が発生しやすい時期は重点的に防火広報を行う。 ・車両による広報 ・広報いが・ケーブルテレビ等メディアを使った広報。 ・ホームセンター等で広報を行う。	2	通年2月～4月とに枯草焼却やゴミ焼却から付近の枯草に延焼する火災が多く発生するため、春先の広報啓発を重点的に実施した。今年度の枯草火災の発生状況は昨年度と同様程度の発生件数である。また、消防団各分団で巡回時に防火広報を実施している。
◎部局目標7	関連の施策・基本事業No. 2-2.③				
予防体制の充実強化を図り、安心安全なまちづくりを進めます。	・事業所等の防火体制を高める。	〈現在の状態〉 法令等に違反し、火災等の災害発生危険がある事業所が存在する。 ↓ 〈達成目標〉 火災発生時に人命危険の高い施設の違反施設数(今年度までの把握施設数8件)を減少させ、新たな重大違反施設の把握を行い是正を進める。 ※目標が達成した状態 ・火災等による被害が軽減される。 ・不特定多数施設を安心して利用できるようになり万が一火災が発生した場合の初期対応がより有効になる。	・重大な消防法令違反がある事業所等に対し消防法令上の権限を適切に行使し、違反是正に取り組む。 ・事業所及び危険物施設において、適切な管理・運用がされるよう、立入検査を行い管理と定期点検の徹底を指導する。	3	・法令違反の事業所において、違反是正に取り組んだ結果、3件の施設を是正させることが出来た。また、1件の新たな是正違反施設を把握した。引き続き違反施設ゼロとなるよう指導を強化する。 ・事業所への立入検査での指導を重点的に実施した。事業所の火災件数は令和4年は前年より11件減少した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段
◎部局目標8	関連の施策・基本事業No. 2-2.②		
多文化共生社会の中 でいろんな国籍の方 にも防火・防災活動に 参加していただけるよ うにします。	・救急講習や初期消火訓練等 における外国人に対する取組 みを進めます。	〈現在の状態〉 外国人に対する救命講習や消防訓練は実施できていない。 ↓ 〈達成目標〉 ・救命講習会の実施 3回/年 ・消防訓練(消火・通報・避難訓練)の実施 3回/年 ・リーフレットによる啓発を行う。 ※目標が達成した状態 ・外国人住民の災害時の被害が軽減する。 ・救命講習受講者が増えることで救命手当の実施率が向上する。	・関係機関と協力して外国人コミュニティとの交流を図り、消火訓練・119番の通報要領・住宅用火災警報器等の説明を実施する。 ・各言語のリーフレットを関係機関と協力して配布する。 ・関係機関を通じて外国人向けスライドを用いた救命講習を実施する。

達成状況 (自己評価)	理由
3	・伊賀市外国人市民向け防災セミナーで救急講習会を実施し啓発を行う予定。また外国人の就業前研修中に救命講習会を実施できるよう計画している。 ・58箇所の事業所に住警器について多言語(5カ国)に対応したリーフレットを324枚配布した。 ・関係機関と連携し伊賀市在住の外国籍の方も参加できる消防フェスタを2月に実施した。約2,500名が参加して防火・防災意識の高揚が図れた。 ・多文化共生課のやさしい日本語の勉強会に消防職員が多数参加した。 ・多言語電話通訳サービスを使用した通報訓練を7月に実施。※訓練者は、ベトナム人1名・救急隊1名・指令課員1名。